

1 市民、事業者、NPOと市の協働による計画推進

(1) 各部会の活動報告

社会環境部会活動報告（平成21年度）

部会長 野田直宏

部会での活動

「大気・ばいじん」が東海市最大の問題であるということで委員の認識は一致しましたが、市民・行政・事業者の協働で取り組むことが難しいため、「水質」を中心として活動することになりました。

具体的な取り組みとしては、プロジェクトチームを作り、モデル地区を2か所選定し、環境浄化微生物を住民に作成、配布していただき、日常生活で使用していただくことで河川等の水質浄化をめざしました。

また、河川とため池では効果にどのような違いが出るのかについても検証してまいりました。

河川・ため池水質浄化プロジェクト

下水道工事が当面実施されない地区をモデル地区とし、上野新川及び新池を対象として、手代ヶ丘及び長生町内会の協力のもと、2年間にわたりプロジェクトを実施しました。効果を確認するため、市で定期的にモデル地区の対象となる河川等の水質調査と生物調査を実施した結果は次のとおりです。

1 水質調査結果

単位：mg/l（pH除く）

	年度	pH	DO	BOD	COD	SS	T-N	T-P
上野 新川	20	6.6	3.5	11	9.4	12	6.9	0.43
	21	6.9	4.3	6.3	9.2	21	6.5	0.35
新池	20	8.5	11	18	30	46	4.1	0.33
	21	9.1	14	37	50	71	5.5	0.57

2 水生生物調査結果（上野新川）

年度	1回目（4月）	2回目（6月）	3回目（8月）	4回目（10月）
20	13種類	19種類	17種類	19種類
21	28種類	19種類	26種類	24種類

調査結果の考察



上野新川中流部からの風景

- ① 上野新川の水質は改善傾向にあり、環境浄化微生物の影響によるものもあると考えております。
- ② 新池の水質は改善傾向は認められず、富栄養化によりかえって悪化したと思われます。
- ③ 確認された水生生物の種類は増えており、水質の改善結果による影響もあるものと考えております。
- ④ これらの結果から、環境浄化微生物はある程度移動性のある水系では、効果が期待できると考えられます。また、ある程度長期間にわたって比較しなければ、効果の検証も難しいと思われるので、今後も調査を継続し、結果を見守っていきたいと思います。

協働について感じたこと・今後の課題

市民、団体、事業者、行政が一緒になって様々な分野について環境改善に取り組んでいくことは、とても良いことだと思います。こうした活動を通じて、これまでとは違った分野の方々とのネットワークが広がったことは、貴重な財産となりました。

モデル地区でのプロジェクトは2年間で終了してしまいましたが、意識のある方々に、市の無料配布の環境浄化微生物を利用し続けていただくことを期待したいと思います。

知多メディアスに所属している私としては、地元の環境関連活動をテレビやFMラジオで積極的に取り上げていきたいと思っています。ただし、情報収集能力が不足しているので、関連イベントなどの情報をご提供いただくと非常にありがたく思います。